

令和4年度日本教職大学院協会研究大会

パネルディスカッションⅠ 概要

日 時：令和4年12月10日（土）13：20～15：00（予定）

開催方法：Zoomによるオンライン配信

（配信元会場：福井大学総合研究棟Ⅰ 13階 大会議室）

テーマ：「令和の日本型学校教育」を支える「新たな教師の学び」の実現のために

趣 旨：

中央教育審議会「令和の日本型学校教育」を担う教師の在り方特別部会において『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の構築～（中間まとめ）をめぐる議論が重ねられてきている。21世紀の社会の主体的な担い手としての力を培うための学びの転換の実現のためには、「子どもたちの学び（授業観・学習観）とともに教師自身の学び（研修観）を転換し、「新たな教師の学びの姿」（個別最適な学び、協働的な学びの充実を通じた、「主体的・対話的で深い学び」）を実現」することが不可欠であり、そのために「教職大学院のみならず、養成段階を含めた教職生活を通じた学びにおいて、「理論と実践の往還」を実現する」ことが求められることが提起されてきている。

しかし、学習の基本的なモードと学習観は、長い学校教育の伝統の中で、その組織・文化、そしてその中で学ぶ一人一人のアイデンティティに深く根ざしており、短期的には変換・置換し得ない。子どもたちと教師の新たな学びへの挑戦を支える協働の企図の継続的長期的な展開とそのための組織化が不可欠となる。

本セッションでは「新たな教師の学び」、教師自身の「主体的・対話的で深い学び」をめぐる議論・実践・研究に深く関わってきたパネリストより、実践的な提起をいただき、とりわけ教職大学院における協働の実践への展望をひらく契機としたい。

※敬称略

パネリスト：加治佐 哲也（日本教職大学院協会会長、兵庫教育大学長）

秋田 喜代美（学習院大学文学部教授、東京大学名誉教授）

柳澤 昌一（福井大学大学院福井大学・奈良女子大学・岐阜聖徳学園大学
連合教職開発研究科長）

小畑 康生（文部科学省総合教育政策局人材政策課教員養成企画室長）

司会：松木 健一（福井大学理事（企画戦略担当）/副学長、総合教職開発本部長）

令和4年度日本教職大学院協会研究大会

パネルディスカッションⅡ 概要

日 時：令和4年12月10日（土）15：30～17：00（予定）

開催方法：Zoomによるオンライン配信

（配信元会場：福井大学総合研究棟Ⅰ 13階 大会議室）

テーマ：教員養成フラッグシップ大学の実践と理論

趣 旨：

世界的に見れば人口増加の中で少子化が進行する日本社会、エネルギー転換によって大きく変化する国際関係や産業構造、社会の隅々までDXが浸透する超スマート社会、どれも学校教育における学習観の転換なくして成り立つものではない。そして、この学習観の転換は順を辿れば教員養成及び教師教育から始まるべきであり、教員養成フラッグシップ大学は、その変革の担い手を期待されている。

ところが、この変革を阻む最大の障壁は、通常の教員養成組織の持つ計画性と、それまでに構築してきたルールや規則、既得権益そのものである。つまり、現行の教員養成を円滑にするはずの組織の持つ計画性、ルールや規則、責任が組織の新たな発展を阻むというまさにアイロニーな事態を発生させている。多少の差こそあれ、フラッグシップ大学はこの障壁の前でたじろいでいる。フラッグシップ大学は、各大学の事情を乗り越え、日本の学校教育の学習観を転換する視点に立って協働を実現しなければならないのではないか。

特に、教職大学院は2008年に設置されてから日が浅く、既成の縛りから最も自由な組織であるはずである。一方で、教職大学院は、新たな提案ができなければ、その影響力が小さいだけに、鳴かず飛ばずのまま時代に飲み込まれてしまう組織でもある。ここではフラッグシップ大学が、学部改革に加えて教職大学院で何ができるか忌憚のない意見交換を通してビジョンの共有を実現したい。

※敬称略

パネリスト：佐々木 幸寿（東京学芸大学理事・副学長、教職大学院長、
先端教育人材育成推進機構長）

廣木 義久（大阪教育大学理事・副学長（教育・研究・危機管理担当））

吉水 裕也（兵庫教育大学理事・副学長（研究・大学院改革担当））

松木 健一（福井大学理事（企画戦略担当）/副学長、総合教職開発本部長）

コメンテーター：アンディ・ハーグリーブス（オタワ大学）

司会：柳澤 昌一（福井大学大学院福井大学・奈良女子大学・岐阜聖徳学園大学
連合教職開発研究科長）